



富士市における睡眠キャンペーンによる  
一般医から精神科医への紹介患者計 582  
人(～2011年9月)の生活問題内訳

問題	人数
職場の対人関係	103
家族関係の問題	91
過労	103
異動	46
自分の病気	46
離職(退職)	22
死別	21
家族の病気	35
経営不振	8
借金苦	10
別居	1
その他	50
なし	5

(N=582 複数回答)

2010年3月、内閣府は、不眠に着目し早期に精神科受診につなげることを目的とした睡眠キャンペーンを導入し、全国的に展開した。

ところが、効果があるとされた睡眠キャンペーンのモデル地域となった富士市では、単に精神科につながった数が増えたことが実績とされ、自死者はむしろ急増していた。(※2012年は全国的に減少している)

実績を調べたところ、経営不振や借金苦などを理由に精神科につながられている事例も確認された。

精神科の早期受診＝自死予防という発想はもはや正しくない

精神科治療の実態を考慮しない無責任な受診促進事業は、逆に自死者を増やす可能性がある